

自作テストのすすめ

— 児童の学びの様子が見えてきます —

一徹国語人

どこの学校を訪ねて授業を参観させてもらっても、学習活動にワークシートを利用することがとても多いように思う。

教科書会社編のものを利用していてもあるが、教師作成のオリジナルの場合も多い。つまり、その学校・学年・学級なりに、身につけさせたい技能や能力を限定し、児童の学習力の実態に合わせて工夫されているのである。

たとえば、文学的教材を読む学習のワークシートをとってみても、

- ・教科書本文からの抜き書き法で主題読み取り
- ・主人公のつぶやき吹出し法で確かな心情読み
- ・文面作成法で各段落各場面の情景変化読み

など、その内容は実に多彩である。教科書の挿絵の一部を取り入れたりして、楽しく学習ができるようにいろいろなワークシー

トが作られている。

ところが、その単元の学習が終了したとき、形成評価をするための検査(テスト)用紙となると、自作している先生は少ないようだ。教材会社が製作したワークテストを利用しているのが一般的である。

児童の学習状況に合わせて工夫をし、適切なワークシートを作れる先生方が、どうして業者テストに頼ってしまうのだろうか。

教材会社で作った国語テストはどれも観点別に出题されている。そのほとんどが一答10点、書字・読字等の言語事項は半分の5点となっているため、計算上実に便利である。また、書字・読字を取り立てて検査するときは一答2点で25問ずつの50問にしている。つまり、教材会社のテストは非常に採点しやすく作られているのだ。

しかしながら、各児童がその単元を通して習得したであろう内容(知識や理解力・思考力・表現力等)の度合い(軽重)について

今一度真剣に考えてみてほしい。

「本文からの抜き書きで正答を求めるもの」、「自分の言葉で要点を列挙したり並べたりするもの」、「解答群の中から記号を選択するもの」など、どれも同じく10点で処理してよいものとは思えない。また、内容理解と言語理解の配点のバランスが10点と5点というのも一考の余地があるだろう。

せっかく、児童の学習状況に合わせたワークシートを作って学びを深めさせているのであるから、学習した内容に合わせてオリジナルのテストを自作してみてはいかがだろうか。

多忙を極め、なかなか時間がなくてそこまでは無理だと思われるならば、業者テストを利用しつつ採点基準を工夫し、得点数値を問題ごとに変えてみるといい。

児童個々の学習達成度を今まで以上に深く理解することができるに違いない。